

# TEAM LAND CRUISER TOYOTA AUTO BODY

DAKAR RALLY 2017  
参戦報告書

市販車部門  
4連覇達成



# 1-2フィニッシュでの完全勝利 市販車部門4連覇達成!

世界一過酷と言われるダカールラリーで  
勝つのは並大抵のことではない  
しかも勝ち続けるのはなおさらのこと  
難しいルート設定、悪天候による競技キャンセル  
不意に襲われるアクシデントなどの難関を  
チームは勝利へ心を一つにして乗り越え栄冠を手にした



クロスカントリーラリーの世界最高峰イベント「ダカールラリー2017」が1月2日〜14日にかけて南米のパラグアイ・ボリビア・アルゼンチンを舞台に開催された。ダカールラリーは1979年にサハラ砂漠への挑戦として、フランス人のひとりの青年ティエリー・サビーヌによって始められた。フランスのパリをスタートし、アフリカはセネガルの首都ダカールがゴールというルートで、「パリ〜ダカールラリー（通称パリ・ダカール）」の名称で世界一過酷なラリーとして知られるようになった。しかし、次第にアフリカ通過国の情勢不安からコースは変更し、2009年から舞台は南米大陸へと移った。

今回が39回目、アフリカから南米に渡って9年目のルートはボリビアを中心に標高4000m級の高地がふんだんに盛り込まれ、例年以上に厳しいコースとなっていた。しかも高地での過酷な戦いが続き、悪天候にルートを阻まれる波乱の展開に。しかし、ランドクルーザー200シリーズで市販車部門に参戦したトヨタ車体のラリーチーム「チームランドクルーザー・トヨタオートポデー(TLC)」は全員が力を合わせて難関に立ち向かい、見事同部門優勝を獲得。挑戦2年目の社員ドライバーも部門準優勝と健闘し、市販車部門の4連覇をワン・ツーフィニッシュで飾った。

今大会に向けてTLCは改造車部門の出場経験が豊富なクリスチャン・ラヴィエルをドライバーとして新たに起用。旧知のベテラン

ナビゲーター、ジャン・ピエール・ギャルサンのコンビによる327号車と、前回大会でナビゲーターからドライバーに転向し、初めてステアリングを握った三浦昂(トヨタ車体広報室)が引き続きローラン・リントロイシターと組む332号車の2台体制で出場した。車両はサスペンションの改良とともにテスト参戦したシルクウェイラリー、モロッコラリーを通じて信頼耐久性の見直しを実施。改造範囲が厳しく制限される市販車部門だが、規定の範囲内で戦力向上を図り、万全の体制で臨んだ。

1月2日にパラグアイの首都アスンシオン



をスタートするとTLCは序盤から327号車、332号車の順で市販車部門のワン・ツー態勢を築いた。4日には332号車が路面の段差にヒットして足回りにダメージを受けたが、メカニックの懸命な作業により完璧に修復。翌日、先行車に道をふさがれて後れをとった327号車をむこうに三浦もそれに応えるかのような快走を見せ、自身初のSS競技区間「トップタイム」を記録した。この日はスベアタイヤを使い切ってしまった327号車にスベアを一本渡してサポートの役割も果たすなど、まさにチーム一丸となってピンチを乗り越えた。

その後ボリビアに入ると悪天候が続き、路面状況の悪化により6日のSSは後半がキャンセルに。続いて中間休息日のラパスへ向かう翌7日も全面キャンセルされた。後半戦に入っても9日、10日はSSの短縮が続き、さらに10日にはSS後のリエゾン(移動区間)で雨による土砂崩れが発生。これにより道路が寸断され大半のラリー関係車両がリエゾンで夜を明かす事態となる中、TLCは競技車と合流したアシスタンス部隊が道路脇に急遽設けられた整備場で翌日に向けた点検整備を実施。またしても機転とチームワークを発揮してワン・ツー態勢を維持した。

12日にアルゼンチン西部の山岳地で競技が再開。最後の難所に2台は集中力を高めて臨んだ。この日は332号車が2回目のSSトップを記録。13日の砂丘ステージではスタックで遅れたものの部門2位の座を守りぬいた。そして14日には終始安定した走りですべて保ったラヴィエル組が総合23位・市販車部門1位、三浦組も24位・部門2位の成績でプエブラスアイレスにゴール。ラヴィエルと三浦のタイム差は1時間42分41秒、三浦組は市販車部門3位のデニス・ペロセフスキー組(ランドクルーザー200)に3時間37分07秒差をつけての盤石の勝利であった。

## トヨタ自動車 豊田章男社長から お祝いのコメントを いただきました



年初にスタートした2017年のダカールラリーがゴールを迎えました。トヨタ ランドクルーザーで参戦した「チームランドクルーザー・トヨタオートボデー」が、市販車部門で4年連続の優勝を果たし、日野自動車の日野レンジャーで参戦した「日野チームスガワラ」がトラック部門で8連覇を成し遂げました。このことを大変うれしく思います。チームの皆さま、関係者の皆さま、本当におめでとうございます。

また、南アフリカトヨタのチームであり、TOYOTA GAZOO Racingの一員でもある「TOYOTA GAZOO Racing SA」が総合5位で、

「OVERDRIVE TOYOTA」が総合4位で、完走を果たしました。

トヨタ車、並びにトヨタグループのダカールラリー挑戦に応援いただきましたファンの皆さまに、心より感謝申し上げます。そして、トヨタのクルマに乗り、トヨタの名を冠した同志達、ダカールに挑み、幾多の苦難を乗り越えて、その厳しい道のりを走り切ったことを、本当に誇りに思います。

今回のダカールラリーには87台の4輪車が出走し、その内の36台がトヨタ車での参戦でした。過酷を極めるダカールラリーの道に挑むにあたり多くのチームが、トヨタのクルマ期待し、その性能を信頼してトヨタを選ん

ださった……。そのことに感謝すると共に、これからも、その期待に応えていける「もっといいクルマづくり」を続けていかなければならないと、想いを新たにいたしました。

道が人を鍛える。人がクルマをつくる…。

過酷な道への挑戦は、必ずや「もっといいクルマづくり」の力になってまいります。今後も、トヨタグループ一丸となって、世界の様々な道走り、「もっといいクルマづくり」に取り組んでまいります。

引き続き、皆さまに、応援いただければ、うれしく思います。

皆さま、応援ありがとうございました。

### チームランドクルーザー累計順位推移

ラリー日程	No.327 ラヴィエル/ギヤルサン 市販車部門優勝	No.332 三浦/リシトロイスター 市販車部門準優勝	
			順位
12月30日(金)	車検	—	—
1月1日(日)	スタートセレモニー	—	—
1月2日(月)	第1ステージ	1(42)	2(45)
1月3日(火)	第2ステージ	1(31)	2(33)
1月4日(水)	第3ステージ	1(24)	2(32)
1月5日(木)	第4ステージ	1(23)	2(27)
1月6日(金)	第5ステージ	1(24)	2(26)
1月7日(土)	第6ステージ *1	1(24)	2(26)
1月8日(日)	休息日	—	—
1月9日(月)	第7ステージ	1(24)	2(27)
1月10日(火)	第8ステージ	1(23)	2(26)
1月11日(水)	第9ステージ *2	1(23)	2(26)
1月12日(木)	第10ステージ	1(24)	2(26)
1月13日(金)	第11ステージ	1(23)	2(24)
1月14日(土)	第12ステージ	1(23)	2(24)

順位は市販車部門、( )内は総合順位  
\*1 悪天候により競技中止。順位は前日までのもの。  
\*2 競技キャンセルのため、順位は前日までのもの。



ワン・ツーフィニッシュで4連覇を達成することができ大変うれしく思います。応援していただいたファンの皆さまや、ご支援いただいたスポンサーならびに関係者の皆さまに感謝を申し上げるとともに、勝利に向かって心一つにして全力で挑んだチームメンバーにも感謝します。南米大陸の道なき道を4年連続優勝で走り切ったことで、私自身が改めてランドクルーザーがもつ卓越した走破性と、

60年以上の間、変わらず世界で支持され続けている高い信頼性を実感しました。今後も、ダカールラリーをはじめ、世界のあらゆる道を走ることのできたノウハウや経験を「もっといいランドクルーザーづくり」に生かし、世界中のお客様の生活に笑顔と感動をお届けしてまいります。今後も引き続きTLCへのご声援をよろしく願います。



トヨタ車体 代表取締役社長  
増井 敬二

## 車検を終えて、ダカールラリー2017が開幕



◀車検場で装備品のチェックを受ける三浦/リシトロイスターのコンビ  
▼スタートボディウムで増井社長、木村常務に激励を受ける332号車



競技に先立つ12月30日、パラグアイの首都アスンシオンで車検が行われた。手続きは順調に終わり、準備は万端。そして年が明けた1月1日、スタートセレモニーが行われ、大会が開幕した。TLCの2台はスタートボディウムでトヨタ車体増井敬二社長、木村健常務役員の激励を受けて、いよいよ競技モードへ。明日からの戦いに改めて闘志をみなぎらせた。

## 初日からワン・ツー態勢を築き、順調な滑り出し

競技初日の2日は、アスンシオンの生活道路や林道を舞台に39kmの競技区間(SS)で競われた。TLCの2台は木立や荒れた路面に気をつけながら冷静に走り、327号車ラヴィエル/ギャルサン組が市販車部門1位、332号車三浦/リシトロイスター組が2位と順調な滑り出し。アンデス山麓で行われた翌日のステージでも手堅い走行で、ワン・ツー態勢を維持した。



332号車は2日目の競技中にウインドウウォッシャー液が無くなるほどのマッド路面に苦しんだが、ナビの機転でミネラルウォーターを窓からかけて、その場をしのいだ

## 好事魔多し。332号車がアクシデントであわやのピンチ

前半、後半合わせて364kmのSSとなった4日は高地が舞台。フェシフェシや砂丘も登場した。前日まで市販車部門トップの327号車ラヴィエル/ギャルサン組は熟練した走りでも部門1位でゴール。一方、332号車三浦/リシトロイスター組は序盤に左前輪を路面の段差に強打。足回りに損傷を与えるも応急処置を施し、部門ワン・ツー態勢はキープした。

ピバークに戻り、角谷監督に状況を報告する三浦ドライバーは落胆の表情



ダメージを負った332号車をメカニックが懸命の作業で修復にあたる。メカニックによる修復作業は深夜に及んだが完璧な整備で翌日のスタートにつなげた

## 窮地を乗り越え、三浦が初のステージトップで完全復活



自身初のステージトップに笑顔で角谷監督と話す三浦ドライバー。難しい砂丘も落ち着いた走りでも切り抜けた

前日、左前輪サスペンションにダメージを負った332号車三浦/リシトロイスター組の車両は完璧に修復。これに発奮した三浦が快走し、自身初のステージトップでゴールした。さらにこの日は草混じりの柔らかい砂地や砂丘が待ち構え、途中タイヤが3本リム落ちて立ち往生していた327号車に自身のタイヤを1本渡してチームをピンチから救うなど、大活躍を見せた。

SSでのタイヤのサポートを受け、三浦ドライバーに感謝を伝えるラヴィエルドライバー。チームワークで市販車部門ワン・ツー態勢をキープした



①雨でキャンセルとなった7日、到着したラパスでは大勢の観客に迎えられた  
②ラパスに特設で設けられた歓迎のボディウムで歓声に応えるラヴィエルドライバー  
③後半戦に向けて、中間休息日はスタッフが徹底的に車両をリフレッシュ



1/14

第12ステージ リオ・ケルト〜ブエノスアイレス

### 全ステージを制して市販車部門4連覇を達成!

競技最終日もTLCの2台は最後まで気を抜かない慎重な走りで327号車、332号車が部門1、2位でゴール。ワン・ツーフィニッシュで市販車部門4連覇を成し遂げた。今大会TLCは初日に市

販車部門のトップタイムをマークしてワン・ツー態勢でスタートすると、その後のすべてのステージを制する完全勝利。最後は3位に3時間37分と、圧倒的ともいえる差をつけて締めくくった。



日本から駆けつけたトヨタ車体岡岡会長(中央右)、中根常務(中央)とともに市販車部門4連覇とワン・ツーフィニッシュ達成に喜ぶチームのメンバーたち。移動区間が673kmと長かったため、表彰は夕方から行われた

1/12-13

第10ステージ チレシト〜サン・ファン

第11ステージ サン・ファン〜リオ・ケルト

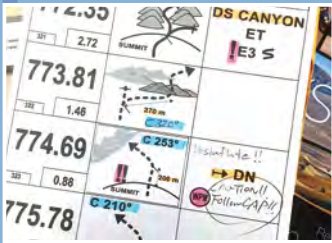
### ナビゲーターの腕が冴え三浦が2度目のトップタイムワン・ツー態勢が盤石に

2度目のステージトップを角谷監督と喜ぶ三浦ドライバー。「ナビゲーションがすばらしかった」とリシトロイスターナビに感謝した



◀実際にラリーで使用するコマ図(地図)。多くの選手たちが難しいナビゲーションに苦しめられた▼ナビゲーションの難しいコースを走る332号車。ルートを外れるとすぐにナビゲーターが修正する息の合ったコンビネーションを見せた

悪天候によるSSの短縮やキャンセルが相次いだ、12日は予定通り実施。今大会最長448kmのSSで、前半は枯れ川の底に行くナビゲーションの難しいコース。石でバンクするリスクも高かった。ここでリシトロイスターナビが的確な指示で332号車を部門トップでゴールへと導いた。後続との差を広げて部門1、2位を維持するTLCは翌13日も落ち着いた走りで部門1、2位でゴール。後続との差は4時間まで広げ、最終日を迎えることとなった。



1/9-11

第7ステージ ラパス〜ウユニ

第8ステージ ウユニ〜サルタ

第9ステージ サルタ〜チレシト

後半戦初日の9日も雨の影響でSSが短縮。翌10日もSSは短縮され327号車が部門1位、332号車が2位を守ったが土砂崩れで道路が寸断され、ビバーク地サルタへの到着が不可能に。途中で臨時ビバークを余儀なくされたTLCの2台と合流したチームアシスタンスの後発隊が、その場で車両整備を行い、臨戦態勢を整えた。翌11日の競技は中止されたが、機転を利かせた見事なチームワークを発揮した。

### ワン・ツー態勢を守るもSSは雨で大混乱 チームは見事な連携でこれに対応



① 豪雨の影響により、川と化したコース。マシンをケアしながら慎重に走行した三浦/リシトロイスター組②第8ステージでは雨でぬかるんだ悪路を力強く進む③雨天の影響はビバークにもおよび。メカニック陣は泥沼化した場所での整備を余儀なくされた

②

③



市販車部門4連覇を達成したTLC  
選手の素晴らしいテクニック  
メカニックの強力なサポート……  
その勝利はチーム一丸となった  
総合力の賜物であった

# V4へ向けた 14日間の 戦い

1/6-8

第5ステージ トゥピサ〜オルロ

第6ステージ オルロ〜ラパス

休息日 ラパス

### ボリビアの大観衆がダカールラリーを迎え、前半戦が終了

ダカールラリー一行はボリビアへ入国。休息日を迎えた首都ラパスでは大観衆が選手たちを歓迎した。雨天にも関わらず沿道には10km以上にわたり観客が詰めかけ、ビバーク前には特設のポディウムまで設けられ、街全体が熱狂した。一方で競技は雨天によるキャンセルが相次ぎ、波乱の展開となったが、TLCの2台は無難に走りきって順位を維持した。チームは後半戦に向け、車両を念入りに整備し、万全の状態を臨んだ。



## 2017 チーム体制

手強いライバルたちとの争いを制して、目標を達成するため新たなドライバーを迎え、日本人メカニック2名を新メンバーに交代フレッシュな顔ぶれで挑み、市販車部門4連覇を成し遂げた

## チーム代表/チーム監督

チーム代表

**林 正敏** [トヨタ車体 常務役員]  
Masatoshi HAYASHI

私どものつくっているランドクルーザーで、社員参加の手づくりチームが、4年連続、市販車部門で優勝できましたことは、我々がやってきたクルマづくり、チームづくりが間違いなかったという結果だと思います。今年のTLCは、新しいドライバーを起用し、日本人メカニックも2人がフレッシュなメンバーでしたが、各々がしっかりと自分の役割を果たし、チームワークを発揮して栄冠を勝ち取ってくれました。これも皆さまのご声援のおかげです。



2012年6月よりチーム代表に就任。「厳しい時こそ明るく、楽しく、元気よく」をモットーにチーム目標である市販車部門優勝に向けてチームを支える。



2014年チーム監督に就任。トヨタ車体のハンドボールチームで選手として活躍し、全日本代表として世界選手権にも出場経験を持つ。世界で戦った経験を生かし、前例にとられないチャレンジングな姿勢でチームを優勝へ導く。

チーム監督 [トヨタ車体広報室]

**角谷 裕司**  
Yuji KAKUTANI

ワン・ツーフィニッシュという最高の形で締めくくることができました。

今回は、テストで過去最高の距離を走り込んできたので、クルマも選手も習熟することができたのだと思います。また、メカニック陣も連夜の作業に追われることとなりましたが、持ち前のチームワークで苦しい時ほど団結できていたと感じました。雨が多く、波乱に満ちた厳しい状況の中で、チームの全員がそれぞれの役割を認識し、気持ちは一つになっていました。最高の結果を最高の仲間と分かちあいたいと思います。

応援していただいた皆さまをはじめ、たくさんの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございます。

## メカニック&amp;アシスタントクルー



No.327 メカニック

**山田 健太** [福岡トヨタ自動車]  
Kenta YAMADA

自分が携わったクルマが優勝できて最高の気持ちです。初めての参加で、流れをつかみ自分から手を出せるまでに時間はかかりましたが、指示されたことはできたと思います。ダカールラリーのスケールの大きさに驚きましたが、あつという間の2週間でした。

2016年4月より福岡トヨタ自動車から派遣され、ダカールラリー初参戦の新人メカニック。ディーラーメカニックとしての経験を活かした即戦力としてチームからの期待も高い。

No.332 メカニック

**小田 裕介** [福岡トヨタ自動車]  
Yusuke ODA

2年目でダカールラリーの流れが分かっているので、積極的に動くことができました。ワン・ツーフィニッシュが達成できてよかったです。自分にとってあつという間の2年間で、これでラリーへの派遣は終わりと思う寂しいですが、楽しかったです。

2015年5月、メカニックとしてTLCのメンバーに加わった。国内外のテストに積極的に参加し、ラリーメカニックとしてのスキルを磨きあげてきた。臨機応変に対応できる柔軟さを持ち合わせ、フランス人メカニックからの信頼も厚い。

No.327, 332 メカニック

**西村 勇樹** [トヨタ自動車]  
Yuki NISHIMURA

小学生のころパリ・ダカに出場しているランドクルーザーをテレビで見てダカールラリーに憧れがありました。チームの一員として参加でき、部門優勝に携わることができてうれしいです。メカニックとしての技術力をもっと磨いて活躍したいと思います。

2016年4月よりトヨタ自動車の開発部門より出向。ダカールラリー初参戦の新人メカニック。市販車両開発経験を生かし、両車の整備、今後のラリー車開発への課題抽出に取り組んだ。



No.332メカニック  
**ジュリアン・バーマン**  
Julien BAUMANN

カミオンクルー  
**ミッシェル・ボージョン**  
Michel BEAUJEAN

カミオンクルー  
**ローラン・ソイエ**  
Laurent SOHIER

カミオンクルー  
**ジルベール・デュドン**  
Gilbert DIEUDONNE

カミオンクルー  
**イヴ・ラクロワ**  
Yves LACROIX

コーディネーター  
**奥地 博之**  
Hiroyuki OKUCHI

ドライバー

## クリスチャン・ラヴィエル

Christian LAVIEILLE

チームメンバーとともに表彰台を祝うことができました。期待の大きさにプレッシャーを感じることもありましたが、その期待に応えることができ、最高の気分です。全ステージ厳しい戦いでしたが、クルマのポテンシャルが高く、なによりチームメンバーが一体となって素晴らしい仕事をこなしてくれました。チームメンバーに感謝するとともに、皆さまの応援とサポートに感謝します。

ダカールラリーをはじめとするクロスカントリーラリードライバーとして2004年にデビュー。市販車部門から改造車部門まで様々なマシンで出場し、ダカール総合トップ10入りを果たした実力を持つ。もともとはプロライダーとしてサーキットレースでモータースポーツに関わり、日本で毎年開催される鈴鹿8耐などにも参戦経験がある。TLCからのダカールラリー参戦は初めてであるが、ダカールラリーの本戦前に取り組んだ海外テストでは車両開発も担い、チームからの信頼も厚い。



ナビゲーター

## ジャン・ピエール・ギャルサン

Jean Pierre GARCIN

今回のダカールラリーはナビゲーションが難しいと言われ、細心の注意を払いながら戦いましたが前半戦はあっという間に終わった感じでした。後半戦も難しいステージが続いたので最後まで気を抜くことなく走り切りました。旧知のラヴィエルドライバーとのコンビで市販車部門優勝ができて、とてもハッピーです。ありがとうございました。

20歳の時より数々のモータースポーツ競技に参戦。技術者として自動車業界に入り、モータースポーツに携わる。ダカールラリーには1997年より参戦し、2000年～2003年には、TLCの前身となる、トヨタ・チームアラコで市販車部門4勝をあげ、チームの勝利に貢献。その後、数々のラリーレイドに、ナビゲーターやオーガナイザーとして経験を積み、2016年大会でTLCに復帰。同大会では市販車部門優勝を獲得し、チームの部門3連覇を果たした。

# No.327

ドライバー

## 三浦 昂

Akira MIURA

前回を上回る2位でゴールすることができて感謝しています。そして、この1年間最大の目標として掲げてきたチーム4連覇を達成でき、とてもうれしく思っています。今回のラリーではチームのサポートはもちろんです。私たち332号車の上位進出も大きな目標の一つでした。ローランナビゲーターはじめ、チームメンバーと過ごしたこの1年は厳しいトレーニングの毎日でしたが、成長した姿を見ることができ、全ての苦勞が喜びに変わる瞬間を感じることができました。ご声援いただいた皆さま、ありがとうございました。

2005年トヨタ車体に入社し、2006年の社員ナビ選考にてナビ候補に選抜。2007年にダカールラリー市販車部門でデビューウィンを果たし、以降2015年まで社員ナビとして計7回のダカールラリーに参戦し、計2回の部門優勝を収めた。2016年大会からはドライバーに転向し、TLC初の社員ドライバーとして5位完走。2017年大会ではより上位への進出を目標に挑み、見事2位でゴールした。



ナビゲーター

## ローラン・リシトロイシター

Laurent LICHTLEUCHTER

今年のナビゲーションはこれまでのダカールラリーの中でも一番難しかったです。雨が多く、高地での戦いも長かったのでメカニックは大変だったと思います。三浦ドライバーはシルクウェイラリーも経験して、昨年よりも速くなりました。彼が大きく成長したことで部門2位を獲得することができました。進歩はまだ続いているので、またチャンスがあればより良い結果を出せると思います。

2015年までTLCに在籍したナビゲーター、アラン・ゲネック氏の強い推薦を受けてTLCに加入。チーム合流と同時にTLCでの社員ドライバーデビューに向けた取り組みに意欲を示し、三浦のドライバートレーニングにも参加。国を問わず、様々なチームのナビゲーター、メカニックとしてクロスカントリーラリーに参戦した豊富な経験を武器に、2017年大会も引き続き、三浦とのコンビで市販車部門を戦った。



エンジニア

伊東 克巳 [トヨタ車体広報室]  
Katsumi ITOH

チームメカニック

フィリップ・シャロワ  
Philippe CHALLOY

No.327メカニック

パスカル・ブローア  
Pascal BEUROIS

No.327メカニック

ニコラ・パティ  
Nicolas PATY

No.332メカニック

ペドロ・アンブロシオ  
Pedro Oliveira AMBROSIO

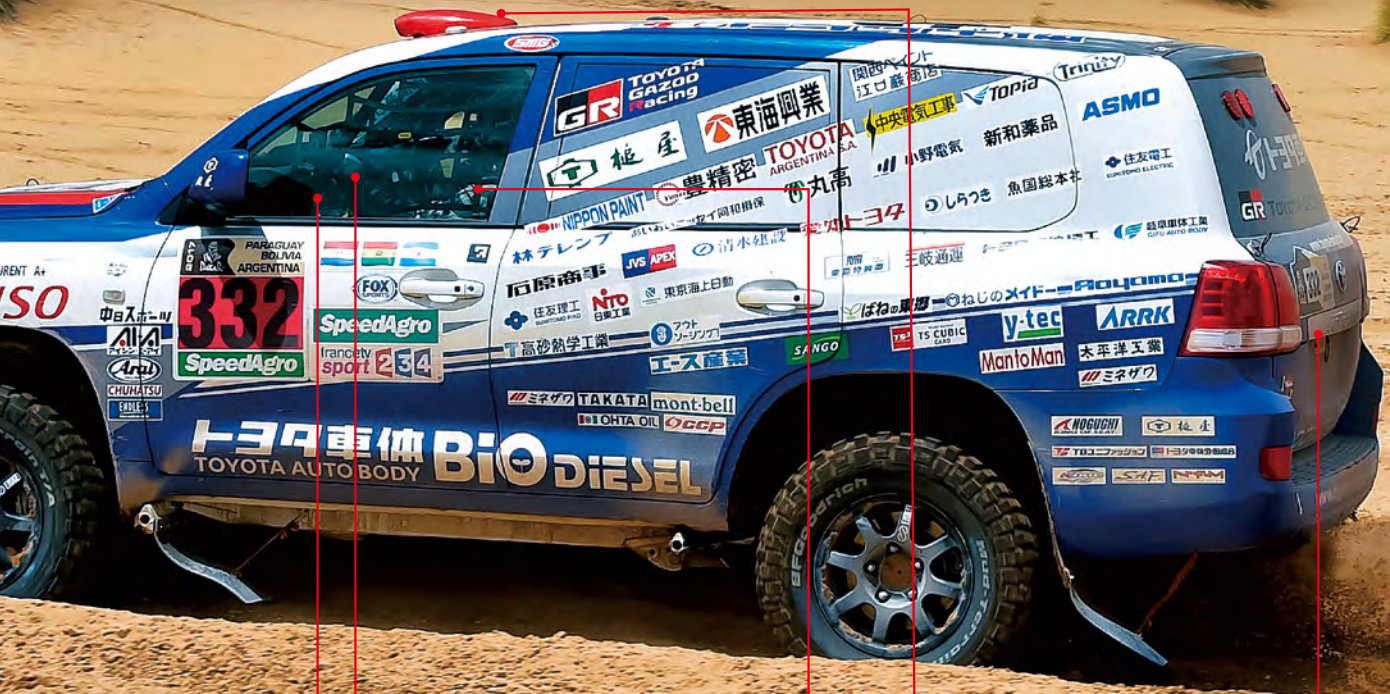
# 勝つために生まれた 王者ランドクルーザー

サスペンションの改良をメインとして  
性能向上を図った2017年仕様の参戦車両  
過酷な戦いを勝ち抜くための体制は  
さまざまなサポートによって成り立っている

TLICのランドクルーザー200シリーズ  
ダカールラリー仕様車は改造を厳しく制限さ  
れた市販車部門仕様。ロールケージや6点式  
シートベルト、大容量の燃料タンクや消火器  
といった「安全に走る」ための装備を備える  
一方、エンジンやトランスミッション、ディ  
ファレンシャルギアなどの主要部分は量産車  
そのものだ。市販車部門の規則では、これらの  
ユニットについてラリー期間中の交換も禁じ  
ており、市販車の性能がラリーの成績に大き  
く反映される。

ラリー用の装備として外装面ではエンジン  
への砂塵の吸入を抑止するシユノーケル、換  
気用のベンチレータ、砂埃中での視認性を  
高めるハイマウントテール/ストップランプ  
などを装備。リアクォーターとリアの窓ガラ  
スは樹脂製に交換されている。また、シヤシ  
ー関連では1輪あたり2本の装着が認められ  
ているシヨックアブソーバーと強化されたス  
プリング、車体下面を岩などの接触から守る  
アンダーガードなどを装着する。室内は2人  
乗りで競技用のバケットシート、GPSなど  
のナビゲーション機器、3本のスペアタイヤ  
をワンタッチで脱着できる専用のブラケット  
などが備わる。

2017年の参戦車はシヨックアブソーバ  
ーの仕様を見直し、実戦テストやモロッコで  
のテストでセッティングの煮詰めを実施。車  
両の安定性が高まり、速さと安全性が向上し  
た。またカラーリングも一新され、トヨタ車  
体のコーポレートカラーであるブルーを基調  
にトヨタモータースポーツ活動の総称である  
「TOYOTA GAZOO Racing」  
のロゴも配し、「一層精悍なイメージとなった。



ベンチレータ  
室内の換気を行うための通気口

## GPS



ナビゲーション機器として助手席にはGPS  
とトリップメーターを装着。ナビゲーターは  
ルートマップの情報と計器の情報を確認して、  
ドライバーに指示を出す。

## ロールケージ



室内に張り巡らされたパイプは、車体剛性と  
転倒時の乗員保護を高めるために装備して  
いる。また、横転時などの乗員放出防止に窓  
にはネットが張られる。

## ラゲッジルーム



荷室には最大3本  
のスペアタイヤを  
積載。スペアパ  
ーツや工具、悪路や  
砂地でスタックし  
た際に使うスコ  
ップなどを装備。



## 車両装備

### コイルスプリング／中央発條



### ショックアブソーバー／BOS

別体式リザーバータンク付アブソーバーは高温下でも高い減衰力と対砂塵性を持つ。卓越した性能と信頼性を誇るコイルスプリングと合わせ、優れた操縦安定性と乗り心地で過酷な走りをサポートする。

### フロントサスペンションアッパーサポート／トピア



路面の衝撃を吸収するサスペンションの取り付け部には、高い精密加工技術でつくられたスペシャルパーツが使われ、厳しい条件下での走りを支えている。

シュノーケル  
砂塵などの吸入による  
トラブル防止のための  
吸気口

### ブレーキパッド／エンドレスアドバンス



長い距離を走行するため、多くの燃料を積んで重くなるマシン。さらに砂、土、泥、岩など多様な路面や急斜面で高い制動力と耐熱性が必要とされるブレーキには、チームとともに開発した専用のパッドが使用されている。

### ホイール／エンケイ



過酷な路面状況を走破する高い耐久性を備えながら軽量化も図った専用のマグネシウム鍛造ホイール。タイヤの空気圧を落とした時にリム落ちしにくいような工夫が施されている。

### 油脂類(エンジンオイルほか)／MOTUL



大排気量車に最適なエンジンオイルをはじめ、ミッション・トランスファー・デフ用オイル、ブレーキフルード、エンジン用クーラントなど、高温で負荷の大きな状況でも性能を発揮する。



屋根の上には「絆」の文字、ボンネットには「TOYOTA GAZOO Racing」のロゴが入るなど、マシンのカラーリングを一新。

リアの丸型4灯のハイマウントストップランプは、後続車への視認性を高め、追突される恐れを少しでも減らすため。



### SPECIFICATION

ベース車両型式	VDJ200
エンジン型式	1VD-FTV型
総排気量	4,461cc
全長／全幅／全高	4,950mm／1,910mm／1,970mm
最高出力／回転数	180kw(245ps)／3,800rpm
最大トルク／回転数	726N・m(74kgf・m)／1,200～3,600rpm
サスペンション	前：ダブルウィッシュボーン式独立懸架コイルスプリング 後：トレーリングリンク車軸式コイルスプリング
ショックアブソーバー	リザーバータンク付単筒ガス式
ブレーキ	前後ベンチレーテッドディスク
トランスミッション	5速マニュアルトランスミッション
タイヤサイズ	285／70R17
ホイール	マグネシウム鍛造17インチ×7.5J
駆動方式	4輪駆動(フルタイム4WD)

## 室内装備

### シートベルト／タカタ



両肩、腰、腿をベルトで締めてバックルで留めるフルハーネスという競技用のシートベルトが使われる。激しい揺れや横転の際にしっかりと体をホールドし、しなやかな素材で体への負担も軽い。

### シート／野口装美



激しい走行でも体をしっかりと支え、最良のポジションとなるよう各乗員の体型に合わせて野口装美独自の衝撃吸収素材で調整。さらにシート後方には同社製作のキャメルバッグ用の保冷バッグが装備され、暑い車内での水分補給に役立っている。

## ドライバー装備

### ヘルメット／アライヘルメット



ラリーでは車両の横転も珍しくないため、乗員の頭部を守る重要な必須アイテム。灼熱の砂漠の暑さの中でも快適に過ごせるよう通気性に優れ、内装も交換しやすいようになっているほか、激しい走行でもブレないようフィット感を高めた形状としている。

### 腕時計／カシオ計算機



衝撃・振動に強く、防泥構造を持つ強靱な腕時計G-SHOCK。素早い方位計測機能は緊急時に目標方向のナビゲートを支援する。傷に強いサファイアガラスと大型のフェイスの採用で視認性も高い。

### レーシングスーツ／PEF



レーシングスーツはイタリアのサベルト社製。競技中の車内は50℃以上になることもあるため、通気性の良い生地を使ったものをオーダーしている。また、アンダーウェアやTシャツ、サロペット（メカニックの作業着）も機能性を考えたものを使っている。

## チーム用品

### キャンプ用品／モンベル



ダカールラリーの競技期間中の基本生活はキャンプ。TLCが使うテントや寝袋、エアマットは、登山や極地遠征での実績を誇り、実用性に富んだ対策がなされている。特に2週間にも及ぶ野外生活で、少しでも疲労を軽減し、快適な睡眠をサポートしている。

### チームウェア／モンベル



突然の雨や砂漠の砂嵐、高低差による寒暖差など、ダカールラリーでは天候がめまぐるしく変わる。そうした状況に対応できるウェアは必須のアイテム。中でも雨は頻繁に見舞われ、登山やアウトドアで実績のある機能性に優れたレインウェアが威力を発揮する。

### チームウェア／TBユニファッション



チーム公式ウェアとして使用されるピットシャツ。機能性を考えて細部までこだわった作りとデザインとなっている。

### 工具／峰澤鋼機



車両の整備に使用し、トラブル時の対応用に車両にも搭載する各種の自動車用工具。タイヤ交換のネジ締め用にマキタ製の電動インパクトレンチやドイツ・スタビレー社の工具を使用している。いずれも機能性と信頼性に優れ、評価も高い。

### ノートパソコン／NEC



厳しいダカールラリーの環境下でも使用に耐えるものが必要となるノートパソコン。ShieldPROは水や塵の進入を防ぐ防滴／防塵設計で、砂塵が舞うダカールラリーでも問題なく稼働。競技中のデータ管理、作戦立案のほか、ラリー車両の開発にも使用されている。

## 食品

### 機能性栄養調整食品／大塚製薬グループ大塚ウエルネスペンディング



長く熱い戦いのダカールラリーでは体力の消耗も激しく、走行中でも水分や栄養の補給が必要。そこで、汗で失われた水分／イオンをすばやく補給するスポーツドリンクや、短時間で簡単に栄養補給ができる機能性栄養食品が激しい戦いを支えている。

### インスタント食品(日本食)／シマツ



日本人スタッフにとっては何よりの力の素となる日本食。米やもちといった炭水化物はエネルギー源となるため、日本人以外のスタッフにも好まれている。携行食として便利な缶詰や味噌汁なども用意され、チームの力強い味方となっている。

ご提供者様から  
メッセージを  
いただきました!

# 環境に配慮した バイオディーゼル燃料での挑戦

TLCは多くの皆さまからいただいた廃食油から精製された  
BDF(バイオディーゼル燃料)を使用してダカールラリーに挑んでいます!

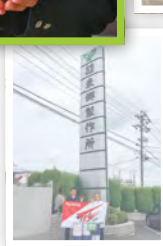


## 刈谷市立富士松東小学校代表児童の皆さん

TLCのチームメンバーが私たちの学校に来てくれたとき、捨てる油でクルマが動くということを知り、本当にびっくりしました。実際に油を学校に持ってきたことで、環境に優しいことをできた喜びと、TLCのみんなと一緒にラリーを戦っていることを実感できた時のワクワク感は忘れられません。また来年もTLCとダカールラリーに挑戦したいです。

## 豊田市立若園中学校代表生徒

世界で戦っているTLCの姿を見て、「頑張してほしい、応援したい!」と思い、生徒会長として学校全体に呼びかけて、一生懸命に油を集めました。その思いは学校の人に伝わり、気がつけば200名近くの生徒が回収に協力してくれました。TLCの4連覇を知った時は一緒に掴んだ勝利のように感じられて誇しかったです。TLCの皆さんには僕たちの思いを繋げてくれてありがとうと伝えたいです。



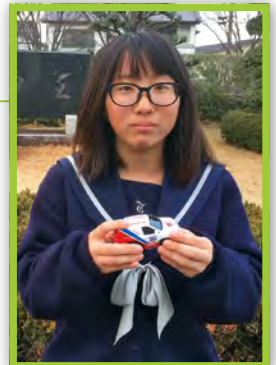
## 株式会社デンソー 新事業推進部 開発者

BDFでのダカールラリー参戦を知り、我々が開発している藻油を原料とするBDFを是非テストしたいと思い、このチャレンジがスタートしました。藻油製BDFが高地、そして低温環境等、非常に厳しい環境下において、最高のパフォーマンスを求められるラリーの現場で通用するか、私たちにとても前例のない大チャレンジでした。TLCの4連覇達成は藻油の持つBDFの原料としての可能性と将来性を確信させてくれる最高の知らせとなり、喜びを感じています。また、プロジェクトに携わるメンバー全員が一つになってチームの勝利に貢献できたことに誇りを感じています。



## 愛知県立豊田南高校代表生徒

捨てる油を有効活用してもらえらるなら、地球環境にも貢献できると思ったことが油を持ってくるきっかけでした。自分も料理をすることがあるので、使い終わった油を捨てるのは手間に感じていましたが、それがクルマを動かす燃料として再利用されるのは素晴らしいことだと思います。この活動を通して感じた自分の変化は、リサイクルできることがないかを日常でも考えるようになったこと、今まで知らなかったラリーの結果が気になるようになったことです。



皆さん、ご協力ありがとうございました!



▼パリ〜ダカールラリーの創設者ティエリー・サビーヌ。初開催時は28歳。86年大会中に搭乗していたヘリの事故で他界した  
▼ビバーク地は大自然の中。開催地は変わってもこの風景は今も昔も変わらない



# 世界最高峰へ 挑み続けるTLC

冒険心あふれるひとりの青年によって始められたダカールラリー。壮大な自然に挑む過酷な競技に多くの者が惹かれ有名選手やメーカーが参加する世界的なイベントへと成長。今もこの戦いに魅せられる挑戦者は絶えることはない。



パリ〜ダカールラリーの創設者ティエリー・サビーヌ（フランス）は1977年にオートバイで出場したアビジャン〜ニースラリーの競技中にリビアの砂漠で遭難。その時の経験からパリ〜ダカールラリーの開催を思いついたという。当時はアフリカを舞台にした冒険旅行的なイベントがいくつか行われ、パリ・ダカもその一つとして始まった。2輪・4輪・トラックが一緒に走る競技形態は「乗り物はなんでも良いからダカールまで競争しよう」という当初の冒険ラリーの精神を受け継ぐものである。サハラ砂漠を約3週間、1万数千kmを走破する競技は年々難易度を増し、いつしか世界一過酷なラリーと称されることに。参加する車両だけでなく人間の総合力が試される競技として人気を高めていった。

第3回大会（81年）からFIA（国際自動車連盟）の公認競技になるとメーカーチームの参戦も活発化。プロトタイプを中心に車両開発も進み、砂漠用のタイヤ、ナビゲーション機器などの技術は市販車にも生かされた。その後エジプトのファアララリーをはじめ短期間の類似イベントも生まれ、ダカールラリーはその影響力を増していく。89年にはFIAによって「クロスカンントリーラリー」という競技カテゴリーが定義され、最高峰イベントであるダカールの規定をベースにグループTと呼ばれる車両規則も定められた。改造を厳しく制限した市販車部門と一定の範囲でこれを認めた改造車部門／プロトタイプ部門というクラス分けは第3回大会から採用されたもので、当時から市販車部門の中にはミッション、デフ、アクスルなど主要な部品に封印を施し、ラリー中の交換を禁じる「マラソクラス」が設定されていた（現在は選択制ではなく市販車部門は全車主要部品交換禁止）。速さだけでなく壊さずに走り切る技量が求められる同クラスは過酷な耐久ラリーの一つの象徴として尊重され、総合優勝争い



ダカールラリーではさまざまなトヨタのクルマが活躍。  
▲プレス車両として使用されているランドクルーザー  
◀今年総合4、5位にはハイラックスが入った

に匹敵する注目度の高い存在であった。

ベースとなる市販車の性能が成績に直結するこの部門で初期の大会から強さを発揮したのがランドクルーザーシリーズである。ランドクルーザーは78年の初回大会に集まった167台の参加車中最多の80台を占めるなど走破性と信頼耐久性が高く、市販車部門でも多くの車両が活躍してきた。また主催者のオフィシャルカーとしても初期の大会から活躍し、現在もランドクルーザープラド、ハイラックスとともにコース管理、メディカル、連絡用など様々な役割を担っている。トヨタの現地法人はラリー中これらの車両のメンテナンスを実施。ラリー運営の一端を影で支えている。

市販車部門で健闘が光るのは87年の第9回大会である。後にTLCでも活躍するジャン・ジャック・ラテガトヨタ・フランスチームのランクル73で市販車部門優勝と同時に4輪全体の312台中総合4位を獲得。ファンや関係者を驚かせた。その後95年からはTLCの前身であるチーム・アラコがトヨタ・フランスチームの流れをくむ体制で市販車部門「ディーゼルクラス」に参戦を開始。10年の間に6





①ダカール初参戦は1995年。1台体制でクラス4位を獲得した②99年はランクル100で初めて挑み、クラス優勝③2005年には部門1-2-3位を独占④元F1ドライバーの片山右京氏が03年より挑戦し、05年にクラス3位に⑤07年には最も好成績を収めた若手ナビに贈られる「アンリ・マニュ賞」を社員ナビの三浦昂が受賞⑥11年、大会史上初の市販車部門6連覇達成⑦96年から継続して販売会社よりメカニックを派遣してもらっている⑧BDFによる挑戦は07年より開始した⑨16年には初の社員ドライバー（三浦昂）が誕生

連覇を含む7回のクラス優勝を遂げた。そして2005年からはTLCがその活動を継続。市販車に近い車両によって優秀な成績を挙げることにはランドクルーザーの性能の高さを示すことであり、「道が人を鍛え、人がクルマをつくる」の思想の下、過酷なダカールラリー

に挑み続けることは「もったいいいランドクルーザーづくり」へ生かされていくのである。また、TLCは社内にて公募選抜した社員をナビゲーター/ドライバーとして育成し起用さらにトヨタ自動車ならびに販売会社の社員がチームのメカニックとして活躍している。

極限の戦いが求められるラリーの現場での経験は人材育成に大きな効果をもたらす。そして環境へ配慮し、軽油に代わりバイオディーゼル燃料(BDF)を使用している参戦も「もったいいいクルマづくり」をめざすTLCの姿勢なのである。

### TLC過去の成績

年度	成績	車両	No.	ドライバー/ナビゲーター	スタート地~ゴール地
1995	4位	ランドクルーザー-80	230	浅賀 敏則/伊藤 健司	グラナダ~ダカール
1996	2位 優勝	ランドクルーザー-80	229 237	浅賀 敏則/伊藤 健司 ジュラル・サラザン/藤沢 隆	グラナダ~ダカール
1997	2位 リタイア	ランドクルーザー-80	233 231	浅賀 敏則/伊藤 健司 ジュラル・サラザン/藤沢 隆	ダカール~アガデス~ダカール
1998	2位 優勝	ランドクルーザー-80	227 230	浅賀 敏則/伊藤 一 ジュラル・サラザン/藤沢 隆	パリ~グラナダ~ダカール
1999	2位 優勝	ランドクルーザー-100	223 224	浅賀 敏則/藤沢 隆 ジュラル・サラザン/ジュラル・トゥルブレ	グラナダ~ダカール
2000	2位 優勝	ランドクルーザー-100	280 285	浅賀 敏則/藤沢 隆 ジャン・ジャック・ラテ/ジャン・ピエール・ギャルサン	パリ~ダカール~カイロ
2001	リタイア 優勝	ランドクルーザー-100	230 234	浅賀 敏則/藤沢 隆 ジャン・ジャック・ラテ/ジャン・ピエール・ギャルサン	パリ~ダカール
2002	2位 優勝	ランドクルーザー-100	237 239	浅賀 敏則/荒川 大介 ジャン・ジャック・ラテ/ジャン・ピエール・ギャルサン	アラス~マドリッド~ダカール
2003	2位 優勝 リタイア	ランドクルーザー-100	223 219 243	浅賀 敏則/荒川 大介 ジャン・ジャック・ラテ/ジャン・ピエール・ギャルサン 片山 右京/ジュラル・トゥルブレ	マルセイユ~シャルム・エル・シェイク
2004	リタイア リタイア リタイア	ランドクルーザー-100	229 231 230	浅賀 敏則/伊藤 一 ジャン・ジャック・ラテ/サミュエル・ラミ 片山 右京/荒川 大介	クレルモンフェラン~ダカール
2005	3位 2位 優勝	ランドクルーザー-100	340 332 343	片山 右京/荒川 大介 ジャン・ジャック・ラテ/ブルーノ・カタリ 浅賀 敏則/沼田 靖志	バルセロナ~ダカール
2006	2位 優勝 順位なし	ランドクルーザー-100	344 351 338	池町 佳生/荒川 大介 ジャン・ジャック・ラテ/ブルーノ・カタリ 浅賀 敏則/沼田 靖志	リスボン~ダカール
2007	リタイア 優勝 3位	ランドクルーザー-100	339 340 346	ジャン・ジャック・ラテ/ブルーノ・カタリ 三橋 淳/三浦 昂 山田 周生/荒川 大介	リスボン~ダカール
2008	大会中止	ランドクルーザー-100	375 376	三橋 淳/三浦 昂 ジャン・ジャック・ラテ/ブルーノ・カタリ	リスボン~ダカール
2009	4位 優勝	ランドクルーザー-200	375 378	三橋 淳/ブルーノ・カタリ ニコラ・ジボン/三浦 昂	ブエノスアイレス~ブエノスアイレス
2010	優勝 リタイア	ランドクルーザー-200	341 338	三橋 淳/ブルーノ・カタリ ニコラ・ジボン/三浦 昂	ブエノスアイレス~ブエノスアイレス
2011	優勝 6位	ランドクルーザー-200	336 340	三橋 淳/アラン・ゲネック 寺田 昌弘/田中 幸佑	ブエノスアイレス~ブエノスアイレス
2012	2位 リタイア	ランドクルーザー-200	339 342	三橋 淳/アラン・ゲネック 寺田 昌弘/田中 幸佑	マル・デル・プラタ~リマ
2013	リタイア 2位	ランドクルーザー-200	341 343	三橋 淳/アラン・ゲネック ニコラ・ジボン/三浦 昂	リマ~サンチャゴ
2014	優勝 2位	ランドクルーザー-200	345 344	三橋 淳/アラン・ゲネック ニコラ・ジボン/三浦 昂	ロサリオ~バルパライソ
2015	優勝 2位	ランドクルーザー-200	343 345	三橋 淳/アラン・ゲネック ニコラ・ジボン/三浦 昂	ブエノスアイレス~ブエノスアイレス
2016	優勝 5位	ランドクルーザー-200	343 342	ニコラ・ジボン/ジャン・ピエール・ギャルサン 三浦 昂/ローラン・リシトロイスター	ブエノスアイレス~ロサリオ
2017	優勝 2位	ランドクルーザー-200	327 332	クリスチャン・ラヴィエル/ジャン・ピエール・ギャルサン 三浦 昂/ローラン・リシトロイスター	アスンシオン~ブエノスアイレス

※2004年まではアラコとして参戦。2005年以降はトヨタ車体として参戦。  
 ※2004年までは市販車部門ディーゼルクラスでの成績。2005年以降は市販車部門での成績。

# ダカールラリー4連覇へ向けた 1年がかりのプロジェクト

王者だからといって日々の精進を怠っては勝利はつかめない  
ライバルよりもさらに多くの努力を積み重ねてこそ  
優勝という目標に近づいていける



## 4月 5月 モロッコテスト

### 4連覇に向け早めの始動開始

前回大会でライバル勢の実力が上がってきているため、TLCはさらなる進化を目指して例年より早めに始動した。このテストでは、ラリー車両のさらなる性能アップと社員ドライバーの育成強化が大きな課題。パワーアップした車両の性能を最大限に引き出せるよう、またどんな路面にも安定した走りができるよう、さまざまな路面でテストを行った。



▲広大な砂丘で走行を繰り返すテスト車両◀メカニックもクルマの理解を深めるため、トレーニングを重ねていく



三浦/リントロイスター組の1台体制で参加。優勝はできなかったものの、モロッコ訓練では体験できないことも多く、十分な耐久評価ができた

## シルクウェイラリー

7月

### 初の参戦で部門2位と優勝は逃すも、車両性能に自信

サスペンションを中心とする改良を加えたテスト車両の性能・耐久評価を行うため、実戦テストとしてTLCは初めてシルクウェイラリーに参戦。競技は7月7日から24日までロシア、カザフスタン、中国の3カ国を舞台に開催。最終日のマシントラブルにより惜しくも2位でゴール。チームは悔しさを噛みしめたがダカールラリーに向けた課題は明確となった。この経験がチームの結束力を一層強固なものにしていくこととなった。

## 10月 モロッコラリー

### 最後の実戦テストで確かな手ごたえ

ダカールラリーに向けた最後の実戦テスト。ダカールラリー2017に向けてTLCはサスペンションの改良に重点を置いて開発を進めてきたが、その開発に加わったクリスチャン・ラヴィエルに車両を託し、最後の仕上げという意味があった。競技は10月1日～7日に行われ、高速域での耐久性を確認するためにハイペースで走行し、ラリー車に高い負荷をかけて問題点の洗い出しを行ったがトラブルもなくオープンクラス優勝。本番に向け自信を強めた。



▲最後の実戦テストをノートラブルで優勝し、笑顔を見せるメンバー▶難しい砂丘や高速走行も問題なくクリアし、最高の形でテストを締めくくった



メタリックブルーの真新しいカラーリングをまとった2台のラリー車は、クルマの挙動や不具合をチェック。ダカールラリー2017に向けてすべての準備が整った

## シェイクダウン

11月

### 完成した本番車両による最後のテスト

幾多のテストを経て完成した新たなサスペンションを搭載したダカールラリー2017参戦車両がスペイン、バルセロナ郊外のオフロードコースを快走。約100kmほどの走行テストを行った後、選手とメカニックからはラリー車の細部に至るまで総点検。市販車部門4連覇という目標を見据え、チームの結束力が一層高まるシェイクダウンとなった。

参戦発表会

勝利をより確実にするための体制を発表

11月6日、愛知県豊田市のさなげアドベンチャーフィールドでダカール2017参戦発表会を開催。冒頭で増井社長は、市販車部門4連覇を目指すとし力強く表明するとともに、ダカールラリーへの参戦意義を改めて紹介。続いて角谷監督が4連覇をより確実にするために強化した新チーム体制を発表し、2017年参戦車両を披露。



▲2017年の参戦体制を発表する増井社長 ◀参加するドライバーとナビゲーター、日本人メカ3名が顔を揃えた



トヨタ車体壮行会

熱い応援を受け、ワン・ツーフィニッシュでの4連覇へ!

12月5日、ランドクルーザーを生産するトヨタ車体吉原工場体育館でダカールラリー2017壮行会が開かれた。トヨタ車体社員や関係者約400名が、TLCの市販車部門4連覇に向け熱い激励を贈った。網岡会長からは「ワン・ツーフィニッシュを!」とさらに高い次元での優勝の期待が寄せられた。チームメンバーは熱い応援に感謝するとともに、4連覇に向けて気持ちを引き締め、チーム一丸となって全力で戦うことを誓った。



必勝祈願のダルマに目を入れた網岡会長(右)と角谷監督



TOYOTA GAZOO Racing FESTIVAL (2016.11.27/静岡県・富士スピードウェイ)



ランドクルーザーフェス2016 (2016.10.15-16/愛知県・さなげアドベンチャーフィールド)



ランドクルーザーフェスinアルツ磐梯 (2017.2.11-12/福島県・星野リゾートアルツ磐梯)



愛知県知事表敬訪問 (2017.2.7/愛知県公館)



富士松東小学校講演会 (2016.6.4/愛知県・富士松東小学校)

# DAKAR RALLY 2017

PARAGUAY~BOLIVIA~ARGENTINA

## TLCの活動を支援していただいたスポンサー企業の皆さま

ご支援・ご声援ありがとうございました

トヨタ自動車株式会社	株式会社榎屋	豊田通商株式会社	東海興業株式会社
株式会社江口巖商店	関西ペイント株式会社	株式会社デンソー	日本ペイント・オートモーティブコーティングス株式会社
アルゼンチントヨタ株式会社	矢崎総業株式会社	株式会社小糸製作所	株式会社ニッコー
豊田機工株式会社	中央電気工事株式会社	株式会社TDC	豊精密工業株式会社
株式会社トヨタ車体研究所	中央発條株式会社	株式会社トピア	トリニティ工業株式会社
川崎設備工業株式会社	株式会社きんでん	林テレンプ株式会社	株式会社大林組
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	丸高株式会社	株式会社イノアックコーポレーション	小野電気株式会社
株式会社中外	新和薬品株式会社	株式会社豊田自動織機	三井住友海上火災保険株式会社
アスモ株式会社	住友商事株式会社	トヨタ紡織株式会社	株式会社ジェイテクト
アイシン精機株式会社	石原商事株式会社	豊田合成株式会社	株式会社アベックス
清水建設株式会社	愛知トヨタ自動車株式会社	トヨタホーム株式会社	白月工業株式会社
株式会社魚国総本社	サントリービバレッジサービス株式会社	住友電気工業株式会社	住友理工株式会社
タケショウ株式会社	東京海上日動火災保険株式会社	三岐通運株式会社	株式会社東海特装車
古河電気工業株式会社	株式会社ジェータックス	トヨタ車体精工株式会社	カリツー株式会社
岐阜車体工業株式会社	シロキ工業株式会社	高砂熱学工業株式会社	TABMEC株式会社
株式会社東郷製作所	日東工業株式会社	株式会社アウトソーシング	エームサービス株式会社
ビューテック株式会社	株式会社クリモト	株式会社メイドー	東海部品工業株式会社
株式会社杉浦製作所	株式会社三五	中川産業株式会社	愛知製鋼株式会社
株式会社青山製作所	株式会社アドヴィックス	エース産業株式会社	株式会社中部リユース
トヨタファイナンス株式会社	ニューライトサービス株式会社	富士ゼロックス株式会社	株式会社ワイテック
株式会社アーク	Man to Man 株式会社	キョーラク株式会社	株式会社コベルク
株式会社東海理化電機製作所	株式会社大気社	太平洋工業株式会社	峰澤鋼機株式会社
イイダ産業株式会社	福岡トヨタ自動車株式会社	MOTUL	アイシン・エアアイ株式会社
株式会社モンベル	カンオ計算機株式会社	TBユニファッション株式会社	有限会社野口装美
タカタ株式会社	株式会社PEF	株式会社アライヘルメット	シマツ株式会社
株式会社エンドレスアドバンス	大塚ウエルネスベンディング株式会社	エンケイ株式会社	NEC



発行/トヨタ車体株式会社 総務部 広報室  
<http://www.toyota-body.co.jp>

禁無断転載

チームランドクルーザー  検索

TLCの活動や映像など、さまざまな情報を発信